

2017年度 体育学研究科(体育学専攻) 博士前期(修士)課程シラバス

科目名(副題)	開講年次(セメ)	授業形態	単位	担当者名
スポーツ史研究	1・2年次秋学期 (2・4セメスター)	講義 ※演習含む	2	來田 享子
<b>授業概要</b>				
近代スポーツ史研究に資する歴史学の理論に関する文献および身体をテーマとする歴史研究に関する文献を履修学生の報告とディスカッションを通じて講読する。				
<b>授業目標(到達目標)</b>				
近代スポーツに関わる歴史学的アプローチでは、この身体文化が成立した時代的・社会的背景を理解することとともに、歴史学のさまざまな理論を応用することが求められる。この講義では、近代史に関わる理論的文献およびスポーツの基盤となる身体に関する歴史研究を精読し、受講生の報告とディスカッションを通じて、スポーツ史研究に欠かせない方法的思考を身につける。				
<b>成績評価方法・基準</b>				
課題への取り組み(40%)、個別発表の方法(30%)、質疑応答能力(30%)				
<b>教科書・教材・参考文献 等</b>				
アラン・コルバン他監修「身体の歴史(全3巻)」(2010、藤原書店)、ロバート・イーグルストン「ホロコーストとポストモダン—歴史・文学・哲学はどう応答したか」(2013、みすず書房)、ロバート・イーグルストン「ポストモダニズムとホロコーストの否定」(2004、岩波書店)				
<b>授業計画</b>				
	<b>項目・内容</b>			
1	イントロダクション:(講義の概要・目的を理解する、報告分担と報告順を決定する)			
2	文献講読(1):「ホロコーストとポストモダン」第1章(「他の書物と同様の仕方で読んだり消費したりしてはならない—同一化と証言というジャンル」・第2章(経験の痕跡—証言のテキスト)を読む			
3	文献講読(2):「ホロコーストとポストモダン」第3章(「忠実でかつ懐疑的、近かつ遠く」—記憶、ポスト記憶、同一性)・第4章(ホロコースト読解—1990年から2003年までのホロコースト・フィクションにおける記憶と同一化)を読む			
4	文献講読(3):「ホロコーストとポストモダン」第5章(歴史主義に抗して—歴史、記憶、そして真実)・第6章(「脚注なら野蛮でないと言えるだろうか」—サウル・フリーとレンダーの仕事における歴史、記憶そしてホロコーストの真実)を読む			
5	文献講読(4):「ホロコーストとポストモダン」第7章(「何が歴史的説明を構成するのか」—ゴールドハーゲン/ブラウニング論叢におけるメタヒストリーと歴史的説明の限界)・第8章(否定論のメタヒストリー—アーヴィング/リプシュタット裁判とホロコースト否定論)を読む			
6	文献講読(5):「ホロコーストとポストモダン」第9章(汲み尽くせぬ意味、消去しえぬ声—レヴィナスとホロコースト)・第10章(哲学の灰、灰の哲学—デリダとホロコーストの痕跡)を読む			
7	文献講読(6):「ホロコーストとポストモダン」第11章(理解の限界—加害者の哲学と哲学的歴史)・第12章(ポストモダン、ホロコースト、人間の限界)を読む			
8	文献講読(7):「ホロコーストとポストモダン」結論および講読文献をめぐるまとめのディスカッション			
9	文献講読(8):「身体の歴史」第I部第2章(庶民の身体、身体のありふれた使い方)を読む			
10	文献講読(9):「身体の歴史」第II部第4章(競技とエクササイズ)を読む			
11	文献講読(10):「身体の歴史」第II部第6章(解剖と解剖学)を読む			
12	文献講読(11):「身体の歴史」第III部第7章(身体、健康、病気)を読む			
13	文献講読(12):「身体の歴史」第III部第8章(非人間的な身体)を読む			
14	文献講読(13):「身体の歴史」第IV部第10章(肉体、優美、崇高)を読む			
15	講読文献をめぐるまとめのディスカッション			
<b>履修者へのコメント・学習課題(事前事後学習)</b>				
事前に講読を行う文献の全体に目を通しておくことが望ましい。				